

# サンゴ礁の保全・再生を進めていくために

## 1. サンゴ礁とは？



「海の熱帯林」と呼ばれるサンゴ礁。熱帯から亜熱帯の海を中心に発達し、色鮮やかな魚たちや多くの不思議な生き物と出会うこの場所は生物多様性の宝庫です。わが国のサンゴ礁は南西諸島や小笠原諸島などで島々を取り囲むように発達しており、これまでに420種以上の造礁サンゴが報告されています。中でも石西礁湖を中心とする八重山列島周辺の海域はサンゴの種類が豊富で360種以上が確認されており、世界的にも貴重なサンゴ礁域の1つとされています。

## 2. 今サンゴ礁に何がおこっているのか？



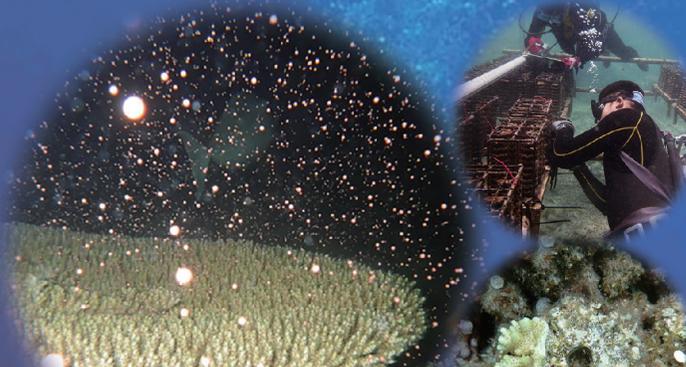
八重山地域のサンゴ礁は1970～1980年代に大発生したオニヒトデの食害により壊滅的な被害をうけました。その後、順調に回復していたものの、1998年と2007年に大規模な白化が起こり、2000年代以降もオニヒトデの大発生が頻発しているため、近年の回復具合は横ばいから若干上向きという状況です。また、生活排水や赤土の流出など人為の影響が、サンゴ礁の自然回復力の阻害要因である可能性が示唆されています。サンゴ礁の本来の自然回復力が最大限に発揮できるよう、一人一人がサンゴ礁に負荷をかけない行動を選択することが望まれています。

## 3. ICRIから国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターへ



サンゴ礁保全は国際的にも喫緊の課題であり、1995年にサンゴ礁の持続的な利用と保全に関する国際パートナーシップである「国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)」が設立されました。ICRIは、総会やフォーラム等を通じたサンゴ礁保全の方針に関する合意形成、地球規模のサンゴ礁モニタリングネットワーク(GCRMN)の構築、発展途上国のサンゴ礁保全に関する能力強化を主な取組としており、当センターは、東アジアにおけるGCRMNの拠点としての役割を果たすことが期待されています。

## 4. 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターの主な活動



### 石西礁湖及び周辺海域におけるサンゴ礁のモニタリング及び再生事業

石西礁湖及びその周辺海域におけるサンゴ礁の変動等のモニタリングやオニヒトデの駆除及び有性生殖法等によるサンゴ礁の修復事業といったサンゴ礁の自然回復力を補助する取組を行っています。また、研究者や市民のサンゴ礁に関する研究や取組みへの支援も行っています。



### サンゴ礁に関する普及啓発

サンゴ礁の価値や役割、保全の必要性を伝えるパネル展示や標本展示に加え、サンゴ礁保全に係る学習協力や海の自然観察会の開催などの普及啓発活動を行っています。



### サンゴ礁に関する情報の収集と提供

国内外のサンゴ礁に関する情報収集を行うとともに、図書資料室の一般公開やウェブサイト等での情報発信を通じた情報提供に努めています。